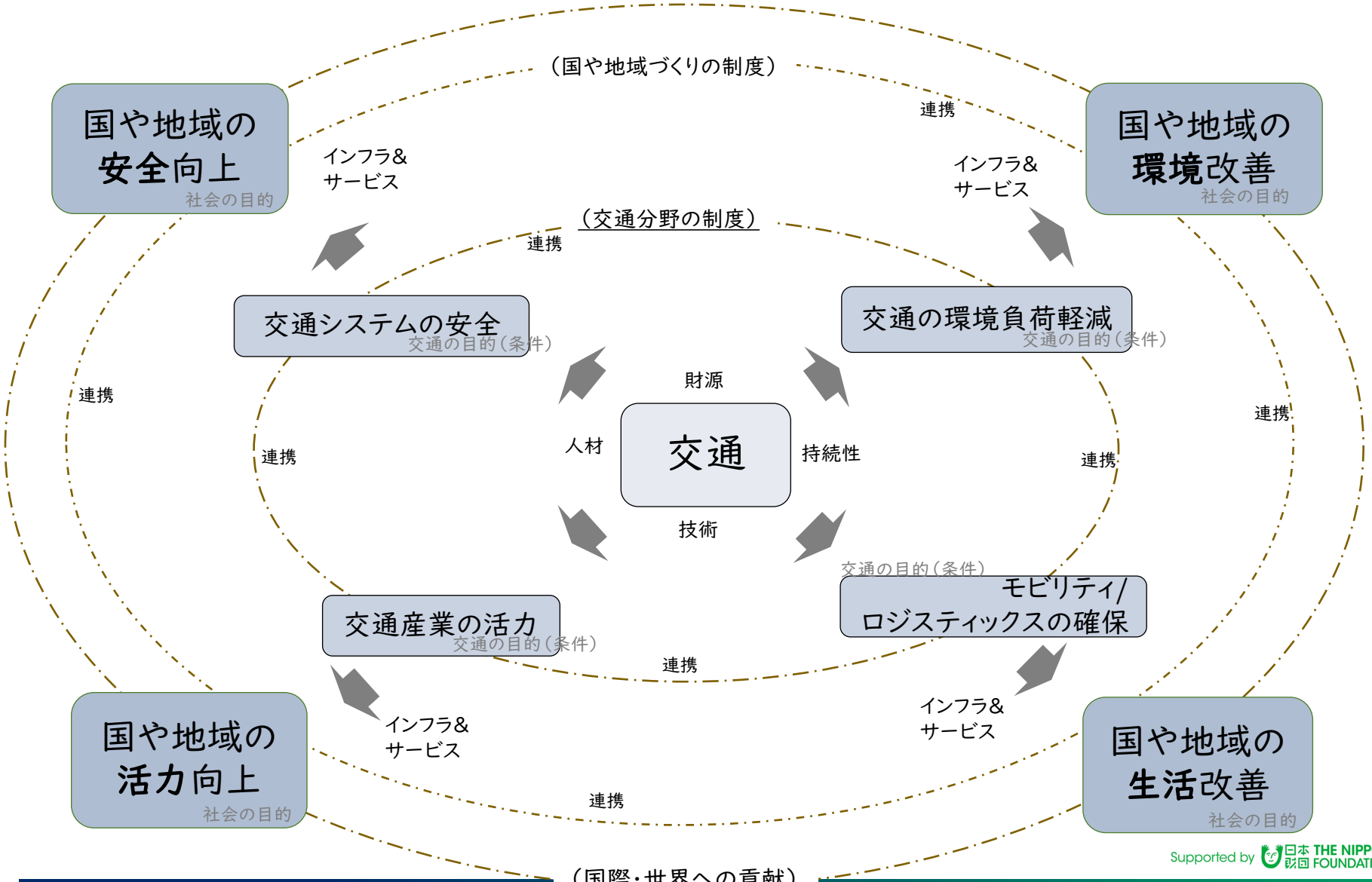
研究調査の概況

屋井　鉄雄
運輸総合研究所　所長

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

研究のポイント

昨年のスライド：「交通の目的」達成によって社会に貢献



社会の4つの目的を常に意識した研究姿勢の必要性

Safety
安全

Environment
環境

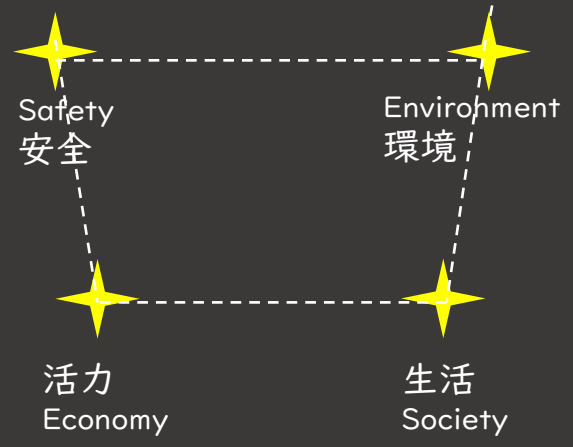
交通・観光
研究

活力
Economy

生活
Society

Sustainable Society
持続可能な社会
(究極の目的)

究極の目的(持続可能な社会の形成)
を意識した研究と取組みも重要!



4つの目的を支える3つの価値、その大切さ
（本日のポイント）

Authenticity
真偽

Justice
正邪

Good
善悪等

Safety
安全

Environment
環境

交通・観光
研究

活力
Economy

生活
Society

Authenticity
真偽

Justice
正邪

Good
善悪等

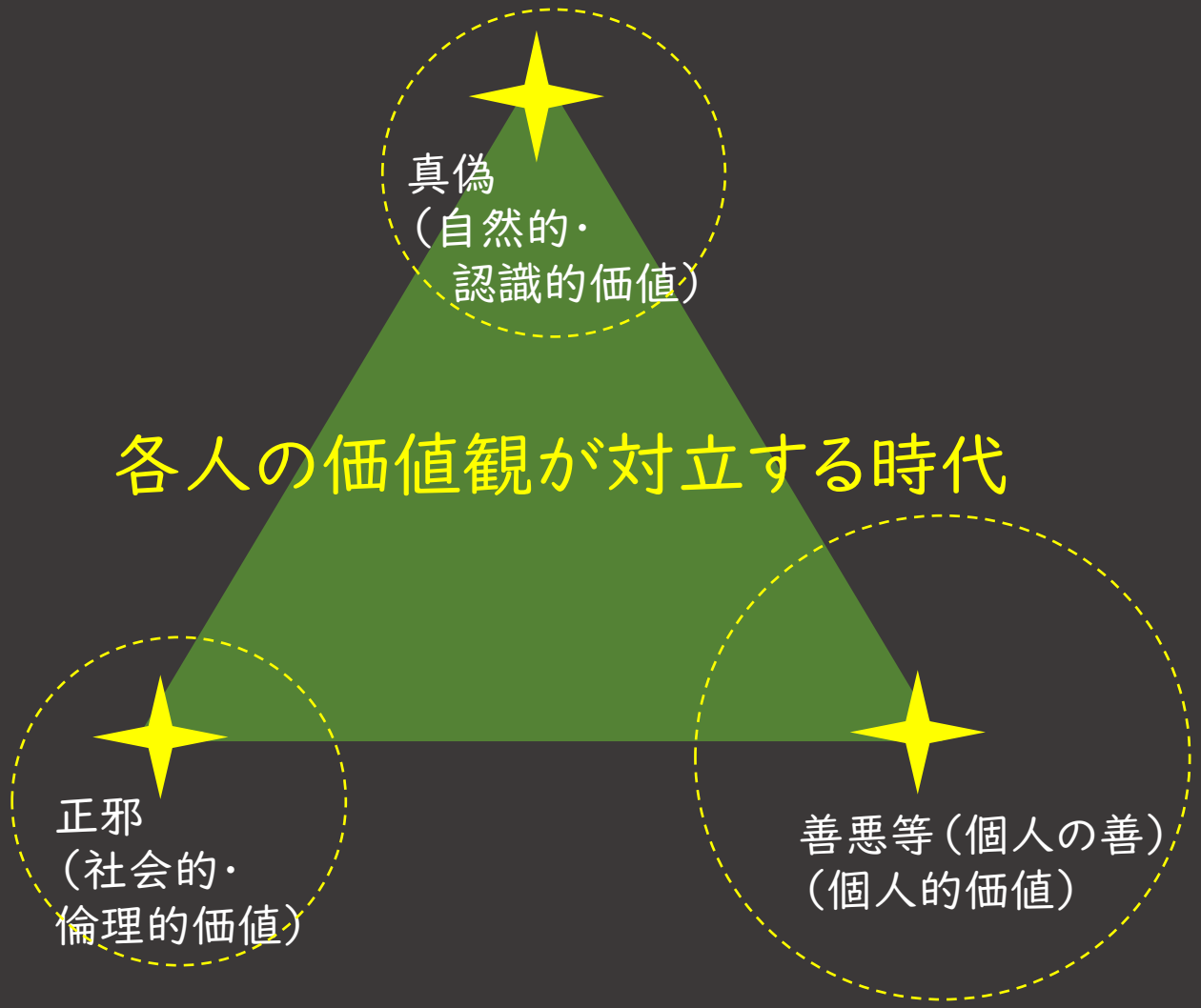
最も容易に
（技術的可能性、費用等の受容性）

最も美しく（most noble way）
（正しく、社会で納得される）

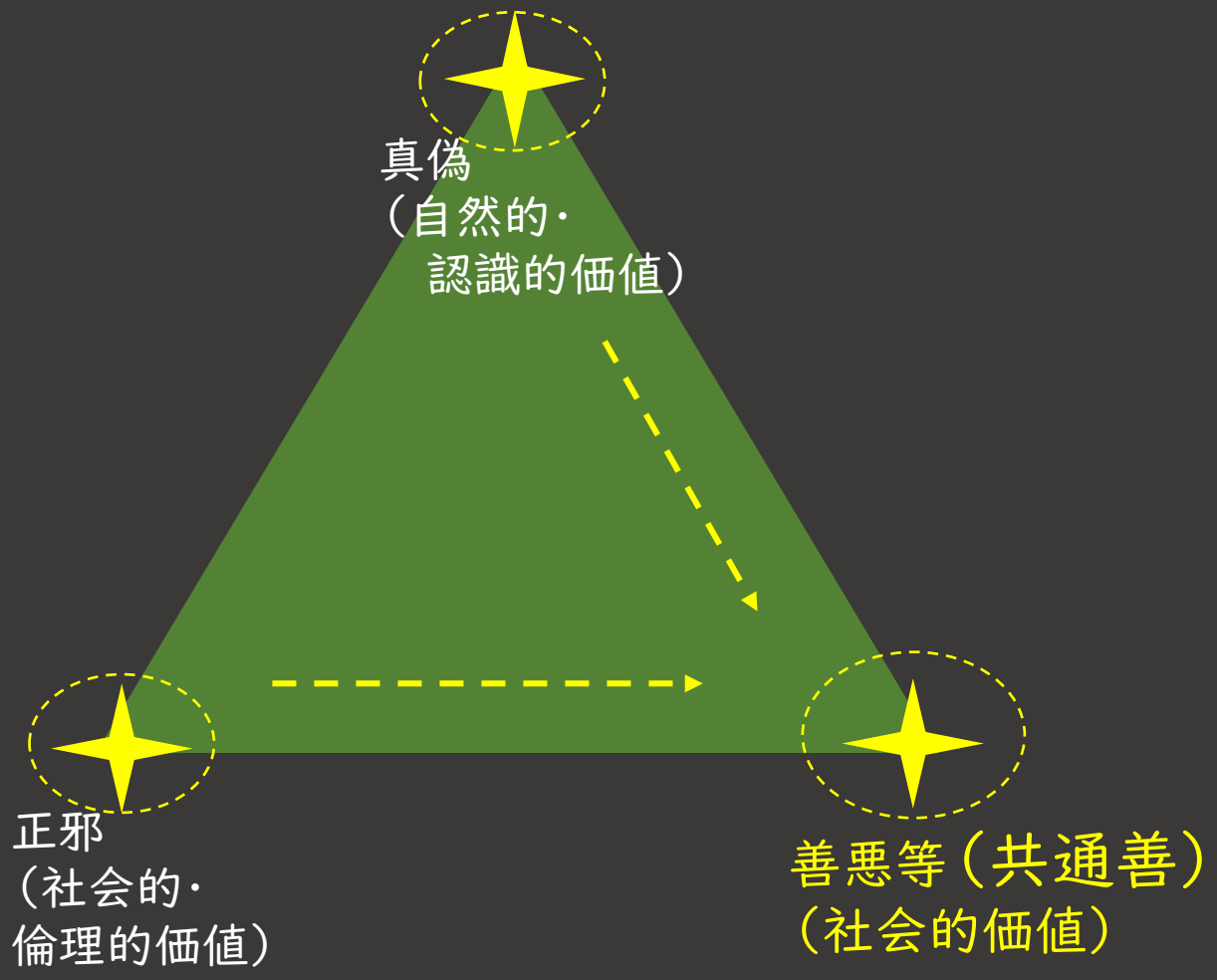
Aristotle（2400年前生）

困難な時代であるからこそ、
社会におけるこれらの価値に十分に配慮した選択
（政策や計画の決定）を行うべきではないか？

真偽-正邪-個人の善悪等の三角形



真偽-正邪-共通善の三角形



3種の価値に配慮する「研究の視点」の必要性

Authenticity
真偽

データや情報の確からしさ、その収集・評価方法、
因果関係などの研究の視点

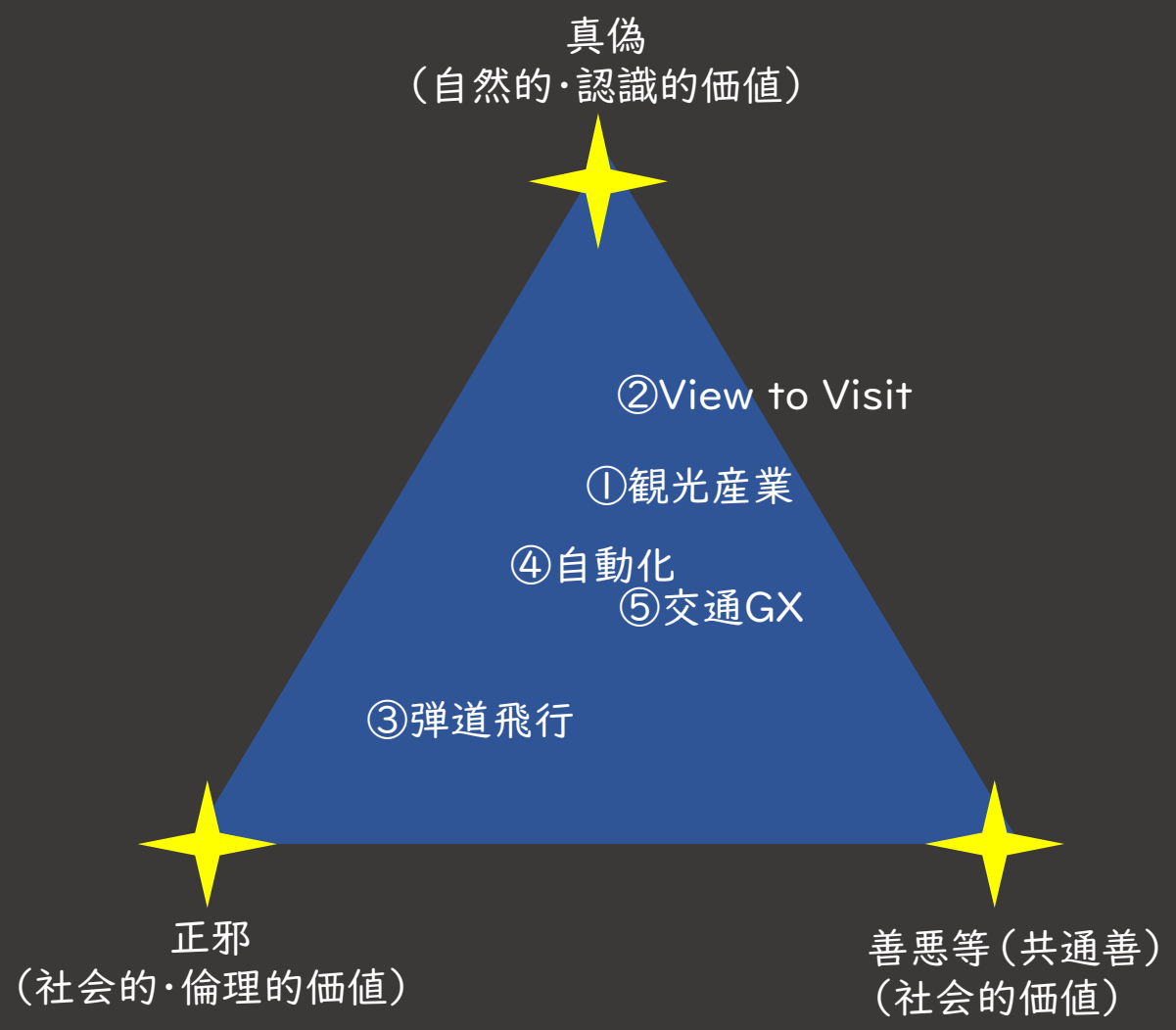
Justice
正邪

これから社会であるべき制度、公正な「決定プロセス」
など、様々な社会制度の研究の視点

Good
善悪等

「各人の価値観」の対立から「共通善」の形成への研究、
社会的な協力方法等の研究の視点

3種の価値に配慮する「研究の視点」の必要性



2025年度研究テーマ

研究テーマ一覧【本部を中心に実施】

（1）誰もが安全かつ低廉に利用できる持続可能な公共交通、モビリティの実現	開始年
交通運輸分野における深刻な人手不足が公共交通の安全性等にもたらす影響と対応方策に関する研究調査	2025
地域交通の確保や新しいモビリティ導入のための社会的受容等に関する研究調査	2024
首都圏空域の将来の利活用に関する研究調査	2024
今後の東京圏を支える鉄道のあり方に関する調査研究	2012
交通機関の自動化が交通産業に及ぼす影響と対応方策に関する研究調査	2023
”人と多様なモビリティが共生する安全で心ときめくゆっくりを軸としたまちづくり”調査研究	2022
地域交通産業の基盤強化・事業革新に関する提言に基づく地域交通制度革新に関する研究調査	2023
新幹線が日本の地域雇用構造に与えた影響に関する研究調査	2023
弾道飛行等による大陸間輸送に関する法的諸問題に関する研究調査	2024
新たなオンデマンド型サービスが地域交通アクセシビリティに与える影響	2025
（2）暮らしや産業を支える強靭で持続可能な物流ネットワークの確保	開始年
サプライチェーン強靭化、持続可能な物流体系の構築のための幹線物流を中心とした我が国のモード横断的なロジスティクスのあり方に関する研究調査	2025
我が国経済を支える国際海上輸送ネットワークの戦略的確保に関する研究調査	2024
海と陸の機能の連携による陸海の結節点の効率化・利便性の向上に関する研究調査	2024
物流データと輸送器具との情報連携に関する研究調査	2024

研究テーマ一覧【本部を中心に実施】

(3) 海事・海洋分野の経済安全保障の確保と法の支配に基づく海洋秩序の維持	開始年
インド太平洋地域における海上保安能力の発展及び国際連携に関する研究調査	2025
我が国経済を支える国際海上輸送ネットワークの戦略的確保に関する研究調査【再掲】	2024
(4) 脱炭素社会の実現	開始年
海運等による水素サプライチェーン構築の国際戦略に関する研究調査	2025
サプライチェーン強靭化、持続可能な物流体系の構築のための幹線物流を中心とした我が国のモード横断的なロジスティクスのあり方に関する研究調査【再掲】	2025
交通機関の脱炭素化が交通産業に及ぼす影響と対応方策に関する研究調査	2023
(5) 持続可能な観光・人的交流の実現	開始年
提言に基づく地域観光産業の基盤強化・事業革新に関する研究調査 (地域観光産業等に関する見える化を通じた高生産性化・高所得化)	2023
首都圏空域の将来の利活用に関する研究調査【再掲】	2024
観光資源としての鉄道資産の活用方策に関する研究調査	2023
持続可能な観光におけるインフルエンサー及びソーシャルメディアの役割に関する研究調査	2024
(6) 我が国の交通運輸・観光政策の体系化	開始年
平成期における我が国の交通運輸・観光政策に関する研究調査	2023

研究テーマ一覧【海外拠点を中心に実施】

（1）米国を中心とした北米地域における事業	開始年
米国等の交通運輸・観光分野の動向等に関する研究調査	
① 航空（次世代航空機を含む）	
② 海上保安、海事産業	
インド太平洋地域における海上保安能力の発展及び国際連携に関する研究調査	2025
③ 観光・人的交流	
④ 鉄道・自動運転	
（2）アセアン・インド地域における事業	**開始年**
東南アジア地域・南アジア地域の交通運輸・観光分野の動向等に関する研究調査	
① 物流	
② 鉄道	
③ 公共交通	
④ 観光・人的交流	
持続可能な観光・人的交流の実現のためのASEANと日本の連携に関する研究調査	2024

研究成果の公表

（1）海運及び航空を含む交通分野のカーボンニュートラルに向けた水素の活用方策に関する研究調査	
	交通脱炭素シンポジウムⅢ 『水素の利活用による交通分野の脱炭素化～地域から未来をつなぐ脱炭素への道～』（2025/03/04）
	「令和6年度 我が国の交通分野の脱炭素化に向けた燃料転換及び水素利用に関する調査研究並びに運輸業界・交通事業者等への周知啓発」報告書（2025/03/31）
（2）交通機関の脱炭素化が交通産業に及ぼす影響と対応方策に関する研究調査	
	交通脱炭素シンポジウムⅣ ～利用者と歩む交通産業のカーボンニュートラル～（2025/04/21）
	「交通産業のCO2削減見通しと 円滑なGX 推進策について」報告書（2025/04/10）
（3）交通機関の自動化が交通産業に及ぼす影響と対応方策に関する研究調査	
	バス・タクシー・鉄道の自動運転シンポジウム（2025/06/13）
	提言 6月上旬公表予定
（4）地域交通産業の基盤強化・事業革新に関する提言に基づく地域交通制度革新に関する研究調査	
	地域交通シンポジウム「緊急提言～地域交通制度の革新案～」（2025/07/07）
	提言 7月上旬公表予定
（5）弾道飛行等による大陸間輸送に関する法的諸問題に関する研究調査	
	「弾道飛行等による大陸間輸送事業に関する法的諸問題に関する研究会」報告書（2025/03/31）
（6）地域観光産業等に関する見える化を通じた高生産化・高所得化	
	報告書・別冊「宿泊産業の生産性向上についての手引き」6月公表予定

本日の報告内容

フランスの観光・宿泊産業の付加価値向上に向けた取組と日本への示唆

2023年度～

○概要

- ✓ 「地域観光産業基盤強化・事業革新に関する提言」に基づき、地域観光産業等に関する見える化を通じた高生産性化・高所得化について研究調査を実施
- ✓ ① 国内地域観光産業の生産性の現状、② 宿泊産業の生産性に関する海外調査、③ 宿泊産業の生産向上のために必要な「見える化」を実施
- ✓ 本日は、『フランスの観光・宿泊産業の付加価値向上に向けた取組と日本への示唆』として、フランスの宿泊施設へのインタビュー結果を中心に報告

○共同研究メンバー

城福 健陽	特任研究員	
古曳 郁美	研究員	（国土交通省）
髙橋 靖史	研究員	（京王電鉄）
岡田 良子	研究員	（国土交通省）
前田 悦子	調査員	（プロパー）
鈴木 宏子	*前研究員*	（国土交通省）
稲本 里美	*前研究員*	（東武鉄道）
春名 史久	*前主任研究員*	（現 新関西国際空港）
矢内 直子	*前研究員*	（現 日本航空）
福井 昌美	*前研究員*	

※（ ）括弧は、出向元、もしくは現職

○体制

「地域観光産業の見える化に関する検討委員会」（座長：屋井所長）

○研究成果

- ✓ 2025年5月 研究報告会で報告
- ✓ 2025年6月 報告書を公表予定
- ✓ 2025年6月 「宿泊産業の生産性向上のための手引き」を公表予定

From Views to Visits
～訪日外客の観光行動に対するインフルエンサーの役割～

2024年度～

○概要

- ✓ 人気の旅行先への集中によるオーバーツーリズムは、世界中の地域社会と国の経済の双方に課題
- ✓ 本研究は、ソーシャルメディアのインフルエンサーが、視聴者の感情と旅行先選択並びに日本旅行中の行動に与える影響を探ることが目的
- ✓ 本研究成果を用いて、観光事業者、政府機関及びDMOが、ソーシャルメディア・インフルエンサーと協力しながら、日本における持続可能な観光のための政策的マーケティングを最適化し、同時に観光客の体験を向上させるのに役立つことを目指している。

○研究者

シャフ シェド アリフ フセイン　研究員（プロパー）

- ✓ パキスタン ラホール工科大学で都市・地域計画修士を取得後、埼玉大学大学院理工学研究科環境社会基盤コース修了。2022年「発展途上国における配車サービスに関する研究ーパキスタン・ラホール市におけるケーススタディ」で博士（学術）を取得
- ✓ 実務経験として、パキスタン ラホール工科大学都市・地域計画学科講師や、City Pulse (Pvt.) Ltd.で都市プランナーとして勤務。
- ✓ 専門分野は、都市計画、旅行行動、交通計画、持続可能な観光など。2024年8月より現職。

弾道飛行等による大陸間輸送事業に関する法的諸問題に関する研究会の報告概要

2024年度～

○概要

- ✓ 弾道（サブオービタル）飛行技術などの開発により、宇宙空間の通過を排除しない大陸間輸送事業が近未来に実現する可能性がある。
- ✓ 当該輸送事業に関し、事故時の損害賠償責任を含め、国際的法制度のあり方について、研究会において検討し、事業促進のための提言をまとめた。
- ✓ 本日は、2025年に公表した提言の概要を報告する

○共同研究メンバー

藤﨑 耕一	主席研究員 研究統括	
水田 早苗	主任研究員	
松原 朋子	研究員	（日本航空）
前田 悦子	調査員	（プロパー）
上田 大輔	*前主任研究員*	*（現海技教育機構）*
小御門和馬	*研究員*	*（国土交通省）*

※（ ）括弧は、出向元、もしくは現職

○体制

研究会（座長：中谷和弘
東海大学法学部教授
/東京大学名誉教授）

○研究成果

- ✓ 2025年3月 提言・報告書をHPで公表
- ✓ 2025年5月 研究報告会で報告

バス・タクシー・鉄道の自動運転導入の効果・影響分析
～運輸分野における自動運転導入の効果・影響と普及加速化に関する調査研究～

2023年度～

○概要

- ✓ 交通機関の自動化は、社会的課題の解決や交通産業の発展に大きな役割を果たすことが期待されている。
- ✓ 本研究調査では、鉄道、商用車といった分野のそれぞれの現状・課題を整理しつつ、効果や影響について分野横断的に分析を行う。分析結果に基づいて、自動運転化の普及加速化に向けた対応策に関する提言を行う。
- ✓ 本日は、バス・タクシー・鉄道を同時に自動運転化した場合に関して、効果や影響の関係性を体系的に整理し、その一部のシミュレーションを実施した。それらを踏まえた交通機関の自動運転化の効果や影響について報告

○共同研究メンバー

武藤 雅威	主任研究員	（プロパー）
新倉 淳史	研究員	（プロパー）
長谷川 稜	研究員	（ｵﾑﾛﾝｿｰｼｱﾙｿﾘｭｰｼｮﾝｽﾞ）
渡邉 洋輔	研究員	（日本信号）
坂本 渉	研究員	（国土交通省）
伊藤佳名子	調査員	（プロパー）
竹島 晃	*前主任研究員*	*（現国土交通省）*
鈴木 淳	*前主任研究員*	*（現国土交通省）*
麻生 勇人	*前研究員*	*（現東京地下鉄）*
小森谷 隆	*前研究員*	*（現鉄道・運輸機構）※（ ）括弧は、出向元、もしくは現職*

○体制

運輸分野における自動運転導入の効果影響と普及加速化に関する検討委員会（座長：屋井所長）

○研究成果

- ✓ 2024年9月　研究報告会で報告
- ✓ 2025年5月　研究報告会で報告
- ✓ 2025年6月　提言公表予定
- ✓ 2025年6月　シンポジウム予定

国内交通分野における脱炭素化の見通しとその影響分析
～交通産業GXロードマップに関する調査研究～

2023年度～

○概要

- ✓ 交通産業は我が国のCO2排出量の約2割を占めており、2030年、2040年の削減目標は設定されていますが、2050年カーボンニュートラルに向けた道筋は不透明な状況
- ✓ 4/21シンポジウムでは、複数シナリオによる交通モード横断的なシナリオシミュレーションやその結果に基づく経済影響分析等を行い、交通産業のGXを円滑に進めるための方策を提言
- ✓ 本日は、シナリオシミュレーションの内容を中心に報告

○共同研究メンバー

谷口 正信	研究員	（国土交通省）
菅生 康史	研究員	（プロパー）
東山 祐也	研究員	（東海旅客鉄道）
加藤 雄太	研究員	（京成電鉄）
伊藤佳名子	調査員	（プロパー）
竹内 智仁	*前主任研究員*	*（現国土交通省）*
堀尾 怜椰	*前研究員*	*（現東日本旅客鉄道）*
園田 薫	*前研究員*	*（現西日本鉄道）*
小倉 匠人	*前研究員*	*（現東急）*

※（ ）括弧は、出向元、もしくは現職

○体制

- ➢ 交通産業GXロードマップ検討委員会（座長：山内弘隆 武蔵野大学特任教授）
- ➢ 交通産業GXロードマップ検討会シナリオWG（座長：大聖泰弘 早稲田大学名誉教授）

○研究成果

- ✓ 2024年4月 中間報告
- ✓ 2024年6月 交通脱炭素シンポジウムⅡ
- ✓ 2025年4月 報告書公表
- ✓ 2025年4月 交通脱炭素シンポジウムⅣ
- ✓ 2025年5月 研究報告会で報告

アンケート結果の活用

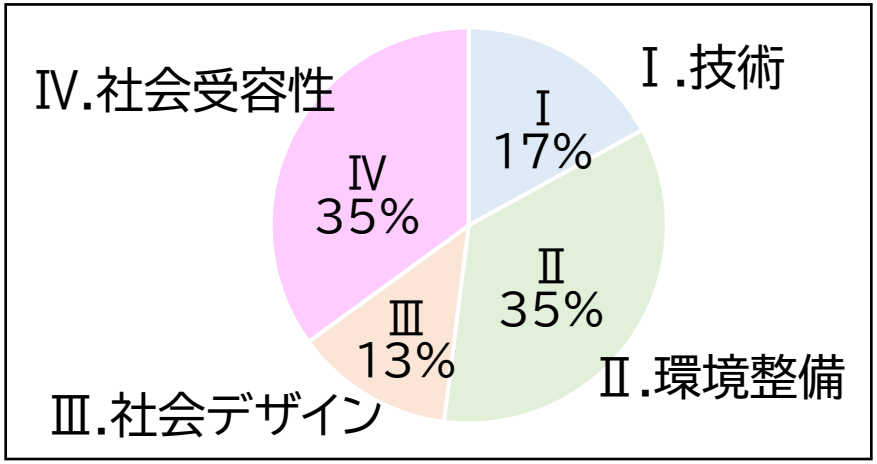
研究報告会(2024年9月)アンケート結果

■自動車（バス・タクシー）、鉄道について、日本における自動運転化に向けた課題の内、 最も重要と思うものをお選びください（単一選択）（技術、環境整備、社会デザイン、社会受容性より1つ選択）

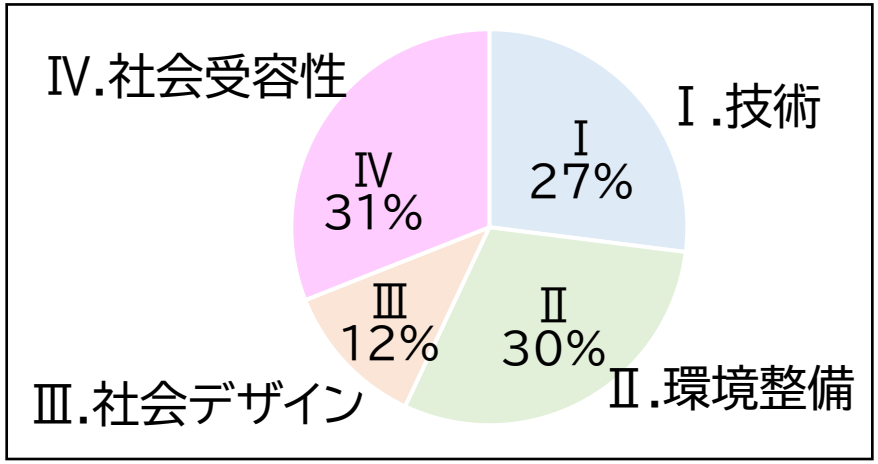
〇最も大きな課題は、自動車、鉄道とも社会的受容性。次いで、環境整備(資金調達や法律/ガイドライン)

〇鉄道の技術(27%)が自動車(17%)より高いのは、踏切のある鉄道での技術開発や日本の安全性への
高い期待が要因と考えられる。

自動車(バス・タクシー)の自動運転化への課題



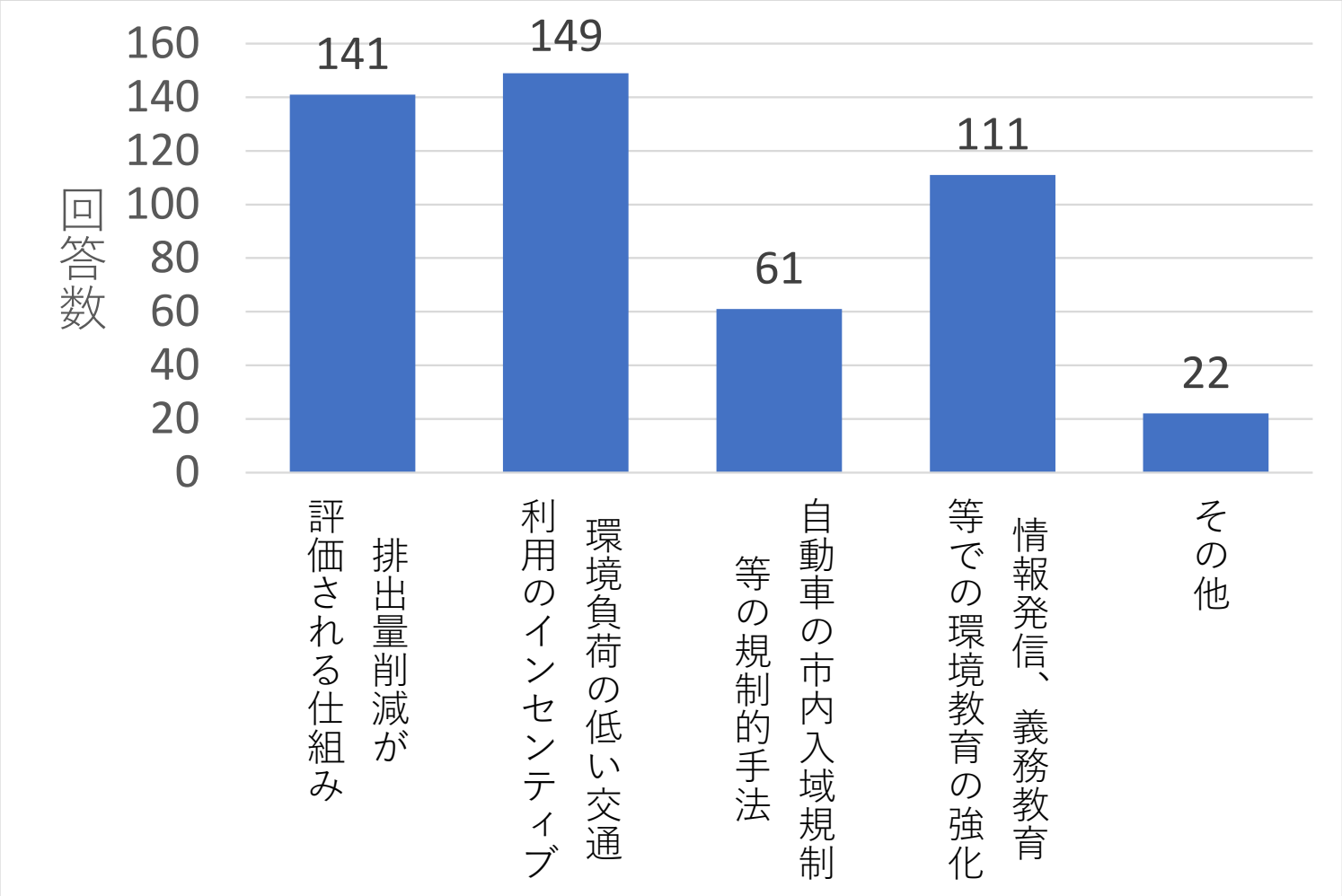
鉄道の自動運転化への課題



交通脱炭素シンポジウムⅣ(2025年4月)アンケート結果

■社会の理解、利用者（荷主含む）の行動変容を促すためには、どのような取組みが必要と考えますか（複数回答可）

- 環境負荷の低い交通を利用するインセンティブと回答が最多
- 次いでScope3排出量削減が評価される仕組みの構築



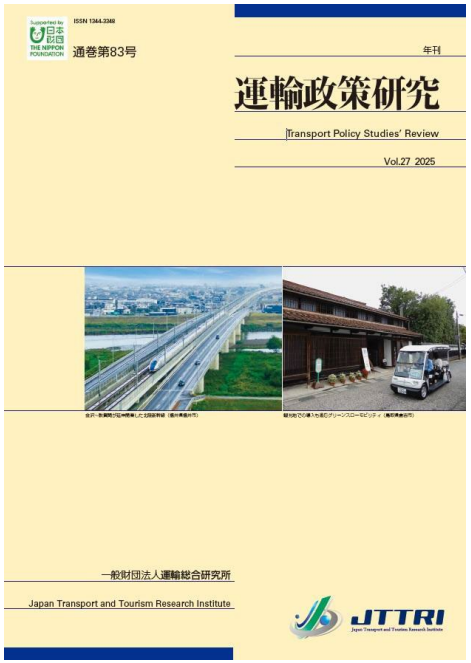
運輸総研だより

機関誌「運輸政策研究」

研究成果の公表

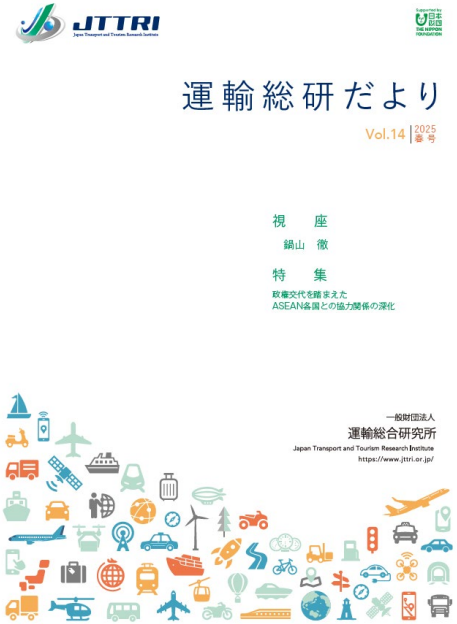
- 研究成果は、ホームページにレポートを掲載
- 機関誌「運輸政策研究」、機関誌「運輸総研だより」で無料で公開

○機関誌「運輸政策研究」



1998年に創刊した「運輸政策研究」は、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という運輸総合研究所の一貫した設立の理念に基づき、交通・運輸及び観光分野に関する論文等を掲載している機関誌

○機関誌「運輸総研だより」



運輸総合研究所の活動の様子や成果をさらに親しみやすく、分かりやすい形で皆様にお伝えするための機関誌

機関誌「運輸政策研究」のご紹介

○J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）、冊子で公開

- Vol.27（2025年2月28日発行）より、全ての記事をJ-STAGEで無料公開
- 過去の論文・書評もJ-STAGEで無料公開
- 冊子は年1回の発行ですが、論文等は完成次第、J-STAGEで順次無料公開

○過去の論文も閲覧されています（2024年4月～2025年4月 閲覧数TOP5）

論文タイトル	発行	巻数	アクセス数
量的基準と質的基準を組み合わせた都市のオーバーツーリズム政策の分析	2022	Vol.24	2,534
外国人観光客の訪日促進策に関する研究	2007	Vol.10/No.1	1,938
観光地の魅力度評価	1998	Vol.1/No.1	1,804
人口稀薄地域における鉄道と路線バスの並行問題	2024	Vol.26	1,261
鉄道サービスにおけるストレス軽減効果の検証	2012	Vol.15/No.2	1,219

○投稿論文募集について

- 交通運輸・観光に関する政策研究論文、学術研究論文、紹介など様々な形式の論文等を、政策担当者、研究者、企業等の関係者から幅広く募集
- 学会等での発表は不要で、締切の設定もないため、いつでも投稿可能
- 査読終了後、速やかにJ-STAGEに掲載
- 論文投稿料は無料

ご清聴ありがとうございました